



SECOM

Sustainability

2024

持続可能な未来のために



〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1
www.secom.co.jp

Webサイトでは詳細な取り組みやESGデータをご覧ください。
※本ブックレットに記載されている情報は、特に記載がない限り、2024年3月末時点のセコム株のものです。

信頼される安心を、社会へ。
SECOM

サステナブルな社会の実現に向けたセコムのこれまでと、これから

セコムは創業以来、「社業を通じ、社会に貢献する」という運営の基本方針のもと、「安全・安心」に寄与するサービスを提供することで社会とともに成長を続けています。これからも将来を担う子どもや孫、その先々の世代まで変わらぬ安心をお届けし続けるため、セコムグループだからできる社会課題・地球環境への取り組みを通じてサステナビリティの実現に貢献していきます。

事業活動

1962年



「警備産業」の誕生

7月7日、創業者・飯田亮、戸田寿一が日本初の警備保障会社として日本警備保障(株) (現・セコム(株))を創業

1964年



東京オリンピックの選手村を警備

1966年



日本初のオンライン安全システム「SPアラーム」を開発・サービス開始

より多くのお客様へ効率よく、高品質なサービスをお届けすることが可能に

1989年

「社会システム産業」を宣言 「安全・安心・快適・便利」な社会を支えるサービス・システムの展開を表明

1999年・2000年

ISO14001(環境マネジメントシステム)の認証取得

セキュリティ機器の製造、設計、開発を担うセコム工業(株)およびセコムTEセンターが認証を取得

2005年

環境基本理念と環境基本方針を策定

人と地球環境とともに

1966年

資源循環型・低炭素型のビジネスモデルの創出

レンタル方式の「オンライン・セキュリティシステム」により、セキュリティ機器の開発・運用・回収までのすべてのライフサイクルにおいてリサイクル率、資源利用効率の向上が可能に

Contents

- P.02 ▶ サステナブルな社会の実現に向けたセコムのこれまでと、これから
- P.06 ▶ サステナビリティ実現への取り組み
- P.07 ▶ 6つのサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)
- P.08 ▶ 重要課題01-06

1981年



日本初の家庭用安全システム「マイアラーム」を開発・発売 (現「セコム・ホームセキュリティ」)

2001年



位置情報提供システム「ココセコム」を開発・発売 移動する人や車の位置などを検索する日本初のセキュリティサービス。頻発する誘拐事件、窃盗事件への対策、個人の防犯対策が可能に

2015年



自律型小型飛行監視ロボット「セコムドローン」のサービス開始

2013年

「女性の活躍推進委員会」の発足 現在は「D&I推進担当」が施策を担う

2017年

ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言 多様な社員一人ひとりの違いを尊重し、それぞれが能力を最大限に発揮できる環境づくりに努めることを宣言



2008年

環境推進本部を設置 環境保全活動を一元的に企画・推進する部署として設置。「環境報告書」の公表もスタート



2011年

「グリーン設計ガイドライン」を発行 主要サプライヤーの皆様へ配布を開始。地球環境に配慮した事業活動への協力を求める

2022年



世界初となるAIを搭載した
「バーチャル警備システム」
を発売



AI・5Gなどを活用し、
巡回警備や点検業務を行う
セキュリティロボット
「cocobo」を発売

2023年



シニア向け
コミュニケーションサービス
「あのね」を発売



日本初、「Apple Watch」の
転倒検出機能と連携した
セコムへの緊急通報が
可能な「YORISOS」
アプリを配信開始



変わりゆく社会に、変わらぬ安心を。 変わり続けるセコム。

社会システム産業の構築を目指し邁進するセコムは、2030年を一つのターゲットとして、セコムの方向性をより明確に示した「セコムグループ2030年ビジョン」を2017年に策定しました。これからも、社会とのつながりを強め、さまざまな社会課題を解決することで、社会とともに成長を続けていきます。

2030年

セコムグループ2030年ビジョン

このビジョンでは、セコムが培ってきた社会とのつながりをベースに、セコムと想いを共にする産・官・学などのパートナーが参加して、さまざまな技術や知識を持ち寄り、一人ひとりの不安やお困りごとに対して、きめ細やかな切れ目のない安心を提供する社会インフラ「あんしんプラットフォーム」の構築を目指しています。

人と地球環境とともに

2019年

サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)を
6つ特定

セコムが社会とともに持続的に成長するために重要となる要素を分析し、重要課題を特定

2020年

環境に配慮した制服へとリニューアル



2021年

- 「セコムグループ サステナビリティ基本方針」を策定
- 「セコムグループ カーボンゼロ2045」策定

※1 SBT (Science Based Targets)・・・パリ協定が求める、気温上昇を産業革命前より2℃を十分に下回る水準 (Well Below 2℃:WB2℃) に抑え、また1.5℃に抑えることを目指すために、企業が科学的根拠に基づいて温室効果ガス排出削減目標を設定すること
※2 RE100 (Renewable Electricity 100%)・・・事業活動で使用する電力をすべて再生可能エネルギーとすることを目標に掲げる企業が加盟する国際的なイニシアチブ

SECOM GROUP
カーボン ゼロ
Carbon Zero 2045

2022年

- 「環境基本方針」を「セコムグループ環境方針」として改訂
- 「セコムグループ 人権方針」の策定
- 6つの重要課題(マテリアリティ)に対する中長期目標KGI・KPIを設定

2027年

ロードマップ2027

「2030年ビジョン」の実現に向け、2027年に目指すべき方向性を明確化

セコムグループ Road Map 2027



サステナビリティ実現への取り組み

セコムでは、地球環境や人権などの社会課題に配慮したサステナビリティ経営の方針を明確化するため、2021年に「セコムグループサステナビリティ基本方針」を策定しました。
この方針のもと、サステナビリティ活動を推進しています。

セコムグループ サステナビリティ基本方針(抜粋)

1. 未来にも“変わらぬ安心”を

私たちは、将来世代にわたり、あらゆるリスクに対して“切れ目のない安心”と“変わらぬ安心”をお届けできるよう、サービスやシステムを進化させていきます。

2. お取引先とともに

私たちは、サプライチェーン全体で、環境保全活動を推進し、脱炭素・循環型社会の実現を目指します。また、人間の尊厳を基本として人権を尊重します。

3. 社会の信頼に応える

私たちは、厳格な行動規範のもとで法令遵守と組織運営に努め、すべてのステークホルダーとの健全な関係を継続していくために、透明、誠実そして公正な企業活動を実践します。

4. 社員一人ひとりが主役

サステナビリティの担い手は、一人ひとりの社員です。社員の働きがいと誇りを大切にしながら、目標達成に向けた意識醸成の教育・啓発に取り組めます。

well-being 向上

制定 2021年12月1日

(マテリアリティ)

6つのサステナビリティ重要課題

創業以来大切にしてきた「セコムの理念」に基づき、社会とともに持続的に成長するために重要となる要素を分析し、6つの重要課題を特定しました。これらは、セコムがこれまで取り組んできたものであると同時に、「あらゆる不安のない社会」を実現するために一層注力しなければならない課題です。解決に向けて重要課題ごとに指標(KPI)を設定し、全社的に取り組みを推進しています。

01 P.08 ▶

お客様視点のサービス



02 P.10 ▶

先端技術の活用とパートナーシップ



03 P.12 ▶

社員の自己実現とダイバーシティ



04 P.14 ▶

人権尊重と誠実な企業活動



05 P.16 ▶

脱炭素・循環型社会



06 P.18 ▶

地域コミュニティとの共生



SDGsとは？

「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。2030年までの達成を目指す世界共通の目標で17のゴール（目標）と169のターゲット（達成基準）から構成されています。



お客様視点のサービス

セコムは、最高品質の「安全・安心」なサービスを24時間365日切れ目なく提供することを通して、安心して住み続けられる社会の実現に貢献していきます。



Why セコムが取り組む理由

- 犯罪や火災の予防
- 自然災害への対策
- サイバー攻撃への対策
- プライバシー保護の徹底
- セキュリティ機器の信頼性と安全性の確保
- お客様にとってわかりやすく、使いやすい商品・サービスの提供



何にどう取り組むか

目指す姿 (KGI)

- 人命・財産被害ゼロを目指す
- お客様の不安ゼロを目指す

目指す姿を 実現するための指標 (KPI)

- 侵入・窃盗の「防犯率^{※1}」：2030年に100%
- お客様からの電話連絡への「応答率^{※2}」：2026年に96%
- セコム・ホームセキュリティお客様アンケートの「安心感」スコア：2030年に100%

※1 ご契約先への侵入・窃盗被害ゼロを目指すセコムの指標

※2 5秒以内にお客様側から切断した放棄呼を除く、応答呼の割合

2023-24 活動ハイライト

▶ トップ・サポートリーダー活動



お客様や社会にセコムの高品質なサービスを提供し続けるために「トップ・サポートリーダー（TSL）活動」を継続しています。TSLとは、組織のトップをサポートしながら率先して組織を変革していくリーダーのことで、「フィールドの実態を良くすること」「清冽な組織風土を醸成すること」をミッションとしています。TSLには、緊急対処員、常駐警備員、現金護送隊員、管制員のそれぞれから、高いグレードを保有する社員が任命されます。研修においてその役割と心構え、リーダーの在り方などを学び、職種の垣根を越えて切磋琢磨しています。

▶ ユニバーサルマナー検定の取得

すべてのお客様に安心していただける対応を目指すとともに障がい者雇用のさらなる促進・定着を図るためにユニバーサルマナー検定の取得を開始しました。2023年度はセコム社員142名がユニバーサルマナー検定3級を取得しており、今後も検定取得者を増やしていく計画です。



※ユニバーサルマナー検定…多様な方々向き合うためのマインドとアクションを学び、身につけるための検定

▶ 「ウェブアクセシビリティ方針」の策定

セコムでは、すべての人が等しくアクセスできるサービスの構築を実現するため、2024年4月に「ウェブアクセシビリティ方針」を策定しました。本方針のもと、セコムがウェブサイトで紹介する商品やサービスに誰もが快適にアクセスできるよう、段階的なウェブサイトの改修を進めています。



先端技術の活用と パートナーシップ

先端技術の研究・開発と産・官・学のパートナーとの協働を推進し、社会課題の解決に貢献する革新的なサービスや商品を創出していきます。



Why セコムが取り組む理由

- 変化する社会課題解決への貢献
- 先端技術活用による新サービスの創出
- 多様化する安心ニーズへの対応
- 共想パートナーとのオープンイノベーションの推進



何にどう取り組むか

目指す姿
(KGI)

- 日本初の“安全・安心”サービスを創出する企業であり続ける

目指す姿を
実現するための指標
(KPI)

- 社会の安心に貢献する研究成果のニュース発信件数：毎年30件
- 国内初の新システム・新サービス開発の公表件数：2030年までに計10件（2021～2030年の累計）
- 企業・自治体・教育機関等との実証実験件数：2030年までに計100件（2021～2030年の累計）
- 設置工事不要のセキュリティ機器・システムの割合※：2030年に10%

※ 市販品採用機器を除く

2023-24 活動ハイライト

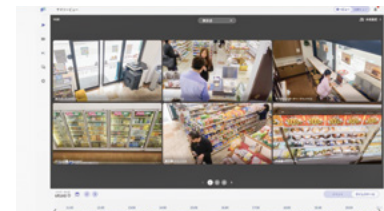
▶ 「Apple Watch」の転倒検出機能と連携した「YORiSOS」の配信開始

2023年4月に配信開始したアプリ「YORiSOS（よりそす）」は、具合が悪くなった時に、アプリ上のボタンを押すだけでセコムへ緊急通報と駆けつけ要請ができるほか、「Apple Watch」が激しい転倒を検出した場合に連携して起動し、セコムに通報することが可能です。「Apple Watch」で計測するさまざまなデータによって日々の健康管理にも役立てることができます。



▶ セキュリティインフラを店舗・施設運営に活用するウェブサービス「dot-i」を発売

セコムは2023年7月、ウェブサービス「dot-i（ドットアイ）」を発売開始しました。このサービスは、セキュリティシステムの通信機能やカメラ映像を活用し、店舗や施設の効率的な運営やサービスの品質向上に役立てることができます。PCやスマートフォンからカメラ映像を確認だけでなく、アーカイブ視聴や業務指示・申し送り機能等のコミュニケーションツールとしても利用できます。このサービスを生んだセコムと(株)ディー・エヌ・エーの取り組みは、2024年2月に内閣府主催の「日本オープンイノベーション大賞」で総務大臣賞を受賞しました。



複数の店舗・施設の映像を一覧比較できる「dot-i」のサマリービュー機能

▶ 日本初となる AI を活用して巡回・侵入監視を行う「セコムドローン XX」を開発

民間防犯用として「セコムドローン」を実用化し、運用ノウハウを蓄積してきたセコムは、2023年10月に飛行時間・速度を大幅に向上させ、新たに画像AIを搭載したセキュリティドローン「セコムドローンXX（ダブルエックス）」を開発しました。このドローンは人や車両を検知し自動で追跡することが可能です。公共施設の点検業務や災害時の安全確認などさまざまな用途においても活用が期待されています。



社員の自己実現と ダイバーシティ

多様な価値観を認め合える社会を目指し、柔軟な働き方やダイバーシティの取り組みを進め、誰もが働きがいと働きやすさを感じることができる職場環境をつくっていきます。



Why セコムが取り組む理由

- 仕事を通じた自己実現のための支援
- 優秀な人財の確保・育成
- 多様な人財が活躍できる風土の醸成
- 健康かつ安全に働き続けられる職場環境の整備



何に取り組むか

目指す姿 (KGI)

- 「働きがいも、働きやすさも」実現する
- 多様性を活かした人財活躍を実現する

目指す姿を 実現するための指標 (KPI)

- 一人当たりの研修時間：2030年に年間50時間
- 有給休暇取得率：2030年までに80%
- 健康経営度調査のスコア：2027年に健康経営銘柄
- 女性管理職者比率（役職者全体）：2030年までに30%
- 男女の賃金の差異：2030年までに85%
- 男性の育児休業取得率：2025年までに50%

2023-24 活動ハイライト

▶ 管理部門における女性リーダーの育成

女性リーダーの育成を強化すべく、管理部門「リーダーシップ向上講座」を開始しました。外部講師による指導のもと、1年間を通して「気づき編」「フォローアップ編」「知識習得編」の3つのパートで行い、フィードバックを実施することで研修効果の向上につなげていきます。



▶ 人財の確保と定着を図るための取り組み

奨学金返還支援制度の導入

2024年度から奨学金返済義務のある入社5年目までの社員を対象に申請時点の奨学金残債額の4%を年間支援額（上限20万円）とし、5年間支給する制度を導入しました。本制度により奨学金返還の負担を抱える社員の経済的・心理的な負担を軽減し、働きやすさを向上させます。



職業体験施設「connect base akasaka」をオープン



採用応募者の学生などが選考前からセキュリティ業務を体験できる施設「connect base akasaka（コネクトベースアカサカ）」を東京都内にオープンしました。この施設では、ご契約先事務所やセコムの事業所を模したブースで、オンライン・セキュリティシステムによる警備の一連の流れを体験できます。

人権尊重と 誠実な企業活動

濁りのない清冽な組織風土を醸成し、人権を尊重した公正で透明性の高い企業活動を遂行することで社会的な責任を果たしていきます。



セコムが取り組む理由

- 社員やお取引先等すべての人の人権を尊重
- コンプライアンスの向上
- サプライチェーンにおけるCSR※活動の推進
- リスクマネジメントの強化
- コーポレート・ガバナンスの強化

※CSR (Corporate Social Responsibility)・・・企業の社会的責任



何にどう取り組むか

目指す姿
(KGI)

- 「人権を守る」企業として社会に評価される
- 正しさを追求し、豁達な組織風土を醸成する

目指す姿を
実現するための指標
(KPI)

- 人権とハラスメント防止のeラーニング受講率：毎年100%
- 人命救助・特殊詐欺被害防止等の貢献
(社長表彰・本部長表彰の件数)：毎年
- 内部監査実施率（対象はセキュリティ事業所）：毎年100%

2023-24 活動ハイライト

▶ 相談窓口の拡充

「セコムグループ 人権方針※」の理解浸透のため、社内教育を実施しています。社員の人権を守り、安心して職務を遂行できるよう、各種相談窓口に加え、2023年度には社外の法律事務所に通報窓口を新設しました。相談者の氏名や相談内容は秘密情報として保持され、相談したことにより不利益を被ることがないように徹底しています。

各種相談窓口

- ・ 社員相談サイト
- ・ ハラスメント相談窓口
- ・ ほっとヘルプライン
- ・ 法律相談サービス
- ・ 障がいのある方の相談窓口



▶ 表彰を通じて清冽な組織風土を醸成

セコムでは、会社および社会に対して大きな功績のあった社員を表彰しています。全国から人命救助、特殊詐欺被害防止、火災防止・初期消火、現行犯逮捕などへの貢献事例が日々報告されており、2023年度には28件の社長表彰、347件の本部長表彰等がありました。お互いに称賛することで社内のコミュニケーションを活性化させ、清冽で風通しのよい組織づくりにつなげています。



脱炭素・循環型社会

安全で快適な暮らしの実現には地球環境の保全が不可欠であるとの認識のもと、セコムグループ全体で環境に配慮した事業活動を推進していきます。



セコムが取り組む理由

- 地球温暖化の防止
- 大気汚染の防止
- 海洋プラスチック問題への対応
- 限られた資源の有効利用
- 生物多様性の保全



何にどう取り組むか

目指す姿 (KGI)

- 「カーボンゼロ2045」を達成する
- サーキュラーエコノミーを実現する

目指す姿を 実現するための指標 (KPI)

- 温室効果ガス排出量の2018年度比削減率：2030年に45%
- 再生可能エネルギー導入率：2045年に100%
- 電動車^{※1}導入率（特殊車両を除く）：2030年に100%
- 電気自動車・燃料電池自動車導入率（二輪含む）：2045年に100%
- 容器包装における化石資源由来バージンプラスチック使用率^{※2}：2030年に0%
- 容器包装における化石資源由来プラスチック使用率^{※2}：2045年に0%

※1 ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、電気自動車、燃料電池自動車

※2 市販品採用機器を除く

2023-24 活動ハイライト

[CO₂排出量削減]

▶ 警備業界初のバーチャル PPA を締結

警備業界で初めて、再生可能エネルギー（以下、再エネ）の環境価値を取引するバーチャルPPA[※]を締結し、2024年3月からセコム専用の太陽光発電所で長期安定的な再エネ利用を開始しました。今後も社会全体の再エネ比率の向上とCO₂排出量の削減に貢献していきます。



セコム専用の太陽光発電所

※日本国内では2022年に始まった再エネ利用の新たなスキームで、再エネ由来の電力を現在の電力契約を変えることなく導入する契約のこと。

[プラスチック削減]

▶ 環境にやさしい素材へ変更

海から回収されたプラスチックを使ったボールペンをノベルティとして採用。「セコムみまもりホン2」の梱包箱を改良し、従来使用していたプラスチック緩衝材を紙製にするなど、環境にやさしい素材への変更を進めています。



海洋プラスチックを使ったノベルティ



改良した「セコムみまもりホン2」の梱包箱

気候変動調査で最高評価を獲得

国際的な環境NGOのCDPが2023年に実施した調査で気候変動に関する戦略や対応が評価され、2年連続で「Aリスト企業」に認定されました。サプライヤー・エンゲージメント評価においてもサプライチェーン全体での取り組みが評価され、4年連続で最高評価「リーダー・ボード」に選定されました。



地域コミュニティとの共生

長年にわたり培ってきたノウハウを活かして防犯意識の啓発活動、災害支援活動など地域に密着した取り組みにより「安全・安心」な暮らしに貢献していきます。



Why セコムが取り組む理由

- 地域社会の発展への貢献
- 超高齢社会への対応
- 自然災害への対策・支援
- 防犯意識の啓発
- 地域防災力の向上
- 将来世代への支援
- スポーツ競技発展への貢献



何に取り組むか

目指す姿

(KGI)

- 地域の安全に貢献する企業として社会の信頼を得る

目指す姿を
実現するための指標

(KPI)

- 「子ども安全教室（教材）」の参加人数：2027年に年間10万人
- 安全啓発ウェブサイト年間アクセス数：2027年に300万PV
- 地元企業との共想（協業・協働・連携）件数：毎年10件
- AED講習会の参加人数：2030年に年間4万人

2023-24 活動ハイライト

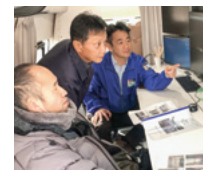
▶ 全国初の包括連携協定で地域に根ざした「安全・安心」を提供

セコムの四国本部は香川県警察本部と2024年6月、「地域の安全安心」に関する包括連携協定を締結しました。都道府県警察と警備会社が分野を特定せず包括連携協定を提携するのは全国初の取り組みとなります。今後も地域の「安全・安心」に貢献するための取り組みを一層強化していきます。



▶ 能登半島地震の被災地支援

2024年1月に発生した能登半島地震の被災地においては、ヘリコプターや移動式モニタリング拠点「オンサイトセンター」を活用することでお客様の安否確認とサービスの早期復旧を図りました。また、AED提供およびAED講習会の実施などセコムグループの経験やノウハウを活かした支援を継続することで地域社会への貢献に努めています。



▶ 地域イベントで命を守る AED を提供

人々が多く集まる地域イベントの「安全・安心」な運営のために、セコムはAEDの無償提供を行っています。実際に人命救助に貢献した事例もあり、運営に携わった方からは万が一に備えることができたとの声をいただいています。2023年度は243台のAEDを全国に提供しました。



京都祇園祭の山鉾（やまほこ）に設置するAEDを提供